



ねんりんピック
紀の国わかやま 2019
囲碁交流大会へ出場！
石川英治さん



↑北海道知事からの賞状とトロフィー
←教え子からもらった宝物の碁盤。
裏には「贈 第七十一回卒業生一同」
の文字。

11月9日から12日まで和歌山県で開催される、第32回全国健康福祉祭和歌山大会「(愛称)ねんりんピック紀の国わかやま2019」の「囲碁交流大会(海南市開催)」へ北海道選手団として派遣される石川英治さん(85歳、六軒町在住)に、出場の喜びと囲碁にかける思いを聞きました。

囲碁との出会い

20歳の時に、ふるさとの南幌町で中学校恩師より手ほどきを受けたのがきっかけで、夢中になりました。その後、教員として利尻小学校へ勤務し、長女が誕生する昭和37年には、産声を上げる間際まで、これも囲碁大好き^{さんば}の産婆さんと徹夜の対局をしたのが忘れられません。教員時代は宗谷地方を転勤して回りましたが、各土地に囲碁が好きな人がいて、対局相手には困りませんでした。日本棋院免状の取得は初段から三段までを30代で、76歳の時には四段を取得しました。

囲碁の魅力

何と についても、若い子どもからお年寄りまで

年齢に関係なく楽しめることです。耳が聞こえづらい私でも、たとえしゃべられなくなったとしても、碁なら打つことができます。札幌市内で囲碁クラブに参加していた時は、小学2年の女の子と対局して負けてしまったこともあります。頭を使うので、良い刺激になります。

二つの宝物

碁盤^{こばん}は、利尻小学校の教え子が卒業の記念に贈ってくれたもので、宝の一つです。もう一つの宝は、平成23年に全道高齢者囲碁大会段位戦で優勝した時に、北海道知事からいただいた「賞状とトロフィー」です。二つの宝がエネルギーになったのでしょうか。ねんりんピックの北海道予選にあたる「第31回全道

高齢者(シニア)囲碁大会」が、5月に札幌市で開催されると聞き、「最後の挑戦!」と思い出場しました。成績は3勝1敗で点数差も考慮されて北海道選手団として選ばれ、大変うれしく思っています。当別での囲碁は白樺コミセンで楽しんでいます(日本棋院当別支部の活動に参加)が、この歳で、ねんりんピックという大きな大会に参加できることは、仲間や皆さんからのご指導や励ましの賜物です。ねんりんピックの囲碁交流大会は3人1組で行われますが、二つの宝物を更なるエネルギーとして、チームの足を引っばらないように頑張ります。

生きがいは「孫・家周り作業・囲碁」という石川さん。遠くで生活する3人のお孫さんには、頻りに手紙をしたためているそうです。ねんりんピックの囲碁交流大会、楽しんでてください。応援しています。(10月8日取材)